

部会名

科学・技術と社会部会

政策提言

科学・技術と社会がより良く関わり合っていくために、科学・技術政策の仕組みや、NPOと国の研究開発イノベーションシステムとの戦略的な関係性、研究者の社会的活動に対する評価を、成熟した知識社会にふさわしいものに変えるべきである。

- 国は、科学・技術政策が策定、実施、評価される仕組みをどのように設計すべきかについて、エビデンスに基づいて検討する国をあげたプロジェクトに着手すべきである。また、そこでは、科学・技術の社会への影響を十分考慮したものとするべきである。
- 国は、国が資金を提供する研究開発の一部について、NPOと協働して、研究のテーマや社会的問題解決のための方法を社会に問いかけ、その中から、領域を超えた研究者間の連携や非専門家と専門家間の連携が行われ、研究の推進や社会的問題解決に有効であるという可能性が見えてきたものを支援すべきである。
- 国は、国が主導する研究開発に従事するすべての研究者がその研究について社会的説明責任を果たし、また研究者の希望に応じて行政機関や社会的企業、NPOへのインターンなど、より幅広い社会的活動ができるような制度を設計すべきである。また、そうした活動が研究者の評価やキャリアパスにおいて重要な位置づけがなされるよう、大学や公的研究機関等に働きかけるべきである。

現状の課題

科学・技術には大きく分けて、（１）社会を知的に先導したり豊かにするものと、（２）経済的・社会的価値の創出に向けたものがある。後者については、科学・技術のあり方を考える上で、そもそもどのような社会を目指し、どのような問題を優先して解決すべきか、それをどのように実現すべきかについての分析、そしてその分析をどのように進めるのかについての研究がほとんどなされておらず、なされた研究も有効活用されていなかったり、十分な説得力を持ったものではないという課題がある。さらに、科学・技術政策が高等教育や環境、医療などの関連分野と分断された形で立案・実施されていること、科学者や市民と政策決定者をつなぐための資金配分・評価・マネジメントコミュニケーションの体制や人材が十分でないことも挙げられる。国が主導し、経済的社会的価値の創出を目的とする研究開発においては、市民やユーザーなど多様な関与者との連携が制度上困難であり、また、それらの成果が社会に普及・定着する局面までを視野に入れたものは少ない。研究開発関連人材においては、キャリアに対応した段階的支援体制が整っていないことや、産業や社会を先導する人材やニーズに対応できる人材の不足が課題となっている。

市民セクターの役割

上記に掲げた現状の課題に対処するためには、政府の政策を変えるだけでは十分でなく、新しい公共を担う市民組織が一定の役割を果たすことが効率的かつ効果的である。科学・技術と社会部会の参加団体も、これまでに科学・技術と社会に関わる活動のための場の構築や連携の支援、人材の育成、情報の提供など幅広く活動を展開してきている。